



花森安治 の仕事 のデザインする手、 編集長の眼

2017

2/11^(土・祝) → 4/9^(日)

THE WORKS OF
YASUJI HANAMORI

A Designer's Hand, an Editor's Eye

開館時間 午前10時～午後6時（入場は午後5時30分まで）

休館日 毎週月曜日 ※ただし3月20日（月・祝）は開館、翌21日（火）は休館。

観覧料 一般：1,000（800）円、65歳以上：800（600）円、大高生：800（600）円、中小生：500（300）円
※（ ）内は20名以上の団体料金。

※障害者の方は500（300）円。ただし小・中・高・大学生の障害者は無料、介助者（当該障害者1名につき1名）は無料。
※リピーター割引：会期中、本展有料チケットの半券をご提示いただくと、2回目以降は団体料金にてご覧いただけます。

主催 世田谷美術館（公益財団法人せたがや文化財団）、読売新聞社、美術館連絡協議会

後援 世田谷区、世田谷区教育委員会

特別協力 暮しの手帖社

協賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網

展覧会のご案内：03-5777-8600（ハローダイヤル）

世田谷美術館
Setagaya Art Museum

花森安治

の仕事

デザインする手、 編集長の眼

THE WORKS OF
YASUJI HANAMORI

A Designer's Hand,
an Editor's Eye



日本の暮らしをかえた 稀代のマルチ・アーティスト!

花森安治（1911-1978）は、終戦もない1946年3月に、大橋鎮子を社長とする衣裳研究所を銀座に設立、新進の服飾評論家としてデビューしました。へ直線裁ち」という誰もが簡単に作れる洋服を提案した『スタイル・ブック』は評判を呼びますが、かねてより計画していた生活家庭雑誌『美しい暮らしの手帖』（のちの『暮らしの手帖』）を1948年9月に創刊し、その後社名も暮らしの手帖社へと変更します。へ衣・食・住を基本にすえ、もののない時代にはへ工夫とアイデアによる豊かな暮らしを提案、電化製品が普及した高度成長期にはへ日用品の商品テストへを実施、そして、食品添加物や公害問題が叫ばれた70年代にはへ社会の矛盾を鋭くえぐる批評へを誌面で展開し、ペンで権力に挑みました。30年間にわたり一切広告を入れず発行

『美しい暮らしの手帖』(1948年)

『暮らしの手帖』(1948年)

『暮らしの手帖』(1948年)

『暮らしの手帖』(1948年)

『暮らしの手帖』(1948年)

『暮らしの手帖』(1948年)

『暮らしの手帖』(1948年)

『暮らしの手帖』(1948年)

『暮らしの手帖』(1948年)

『暮らしの手帖』(1948年)

「一匁五厘の旗」を広げる
花森安治 1971年

『暮らしの手帖』1世紀74号
1964年5月 暮らしの手帖社

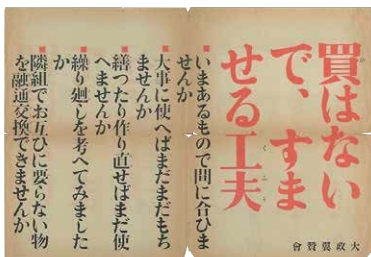


『暮らしの手帖』1世紀74号
1964年5月 暮らしの手帖社

誌を超えた「運動」
として捉え、多彩
な仕事のなかから
その思想を探って
いきます。



〈日用品の商品テスト〉で評価が高かったイギリス製のアラジンのストーブ 個人蔵



↑大政翼賛会ポスター
「買はないで、すませる工夫」(制作:村上正夫)
1943年 アド・ミュージアム東京蔵

←『暮らしの手帖』1世紀
96号 特集:戦争中の暮らしの記録 1968年8月
暮らしの手帖社蔵



花森安治『美しい暮らしの手帖』1世紀1号
表紙原画) 1948年9月 世田谷美術館蔵



編集部の花森安治 1972年 写真提供:暮らしの手帖社

関連企画

★講演会

「父・花森安治のこと」

父と過ごした日々を娘の視点からお話しいただきます。

日時 3月11日(土) 14時〜15時30分 ※開場は13時30分

話し手 土井藍生(どい・あおい、花森安治の長女)

聞き手 矢野進(本展担当・当館学芸員)

会場 当館講堂

定員 先着140名

※当日、13時からエントランス・ホールで整理券を配布します。

※手話通訳付

聴講料 無料

★1000円ワークショップ

どなたでも、その場で気軽に参加できる工作など

日時 会期中の毎土曜日 13時〜15時

会場 当館地下創作室

参加方法 時間中随時受付 参加費 1回1000円

★講演会

「花森安治の『暮らしの手帖』」

編集長・花森のもとで働いた18年間について、エピソードをまじえてお話しいただきます。

日時 3月18日(土) 14時〜15時30分 ※開場は13時30分

話し手 小樽雅章(こくろ・まさあき、「暮らしの手帖」元編集部員)

会場 当館講堂

定員 先着140名

※当日、13時からエントランス・ホールで整理券を配布します。

※手話通訳付

聴講料 無料

交通案内

・東急田園都市線「用賀」駅下車、北口から徒歩17分、または美術館行バス④「美術館」下車徒歩3分

・小田急線「成城学園前」駅下車、南口から渋谷駅行バス⑤「砧町」下車徒歩10分

・小田急線「千歳船橋」駅から、田園調布駅行バス⑥「美術館入口」下車徒歩5分

・来館者専用駐車場(無料、60台): 東名高速道路高架下、厚木方面側道400m先、美術館まで徒歩5分



世田谷美術館
Setagaya Art Museum

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2
Tel. 03-3415-6011 (代表)
www.setagayaartmuseum.or.jp

展覧会のご案内: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)

★同時開催 ミュージアム コレクション III

「ぜんぶ 1986年—世田谷美術館の開館とともに」

2016年11月5日(土)~2017年4月9日(日)

★次回企画展

「エリック・カール展」

2017年4月22日(土)~7月2日(日)